

《平成 15 年度 課題概要》

背景と目的

本事業は、青年海外協力隊、シニア海外ボランティア等として派遣される現職教員に対して、蓄積された経験や協力モデルを伝達し、開発途上国での活動経験の浅い現職教員を教育内容面・方法面で組織的・体系的に支援することを目的とする。平成 15 年度は、現職派遣隊員に対する有効な支援方法の構築と、日本国内からの後方支援準備を行うことを課題として取り組んだ。予定した計画に沿って、派遣隊員の教育活動に資する教材を開発し、研修の実施とアンケート調査を実施すると共に、開発途上国での現職教員の活動を支援するシステムの構築を進めた。

事業内容

派遣前研修の実施と教材作成

広尾、二本松、駒ヶ根の各研修所において青年海外協力隊 15 年度一次隊の派遣前研修の一環として、講義と演習、実習までを含めた講座『役立つ日本の授業研究』を実施し、今後の研修において参照しえる「派遣前研修教材」を準備した。

派遣隊員の教育協力活動上のニーズに関する調査

現職派遣隊員の教育活動上のニーズを調べるアンケート調査を実施し、隊員の声を直接聞く機会を設けて、現地で切望されている支援の在り方を探った。同時に、教職経験を活かしえなかった場面についての記述分析を通して、任地と日本の教育方法や業務習慣などの相違からくる障害を抽出し、派遣先とのマッチング、派遣前研修や技術補完研修、日本からの後方支援など今後検討すべき事柄を抽出した。

教育協力活動に活用しえる教材作成

日本国内で定評のあるフリーウェア『Grapes』の英語版を作成し、そのマニュアル、サンプルデータ集を作成した。このソフトウェアは、中学校、高校で学習する関数のグラフや軌跡を容易に描くことができ、また様々な角度から探究できるソフトウェアであり、その利用を通じて途上国の子どもの学習活動を促進することが期待できる。同ソフトを現地において活用できるようにする作業として、派遣隊員がインターネット上から容易にソフトウェアを利用し、そのサンプルデータ集を参照できる環境を整えた。

「帰国隊員からの情報収集とその共有化」

帰国隊員からの情報収集の一貫として、平成 16 年 3 月に帰国した派遣隊員に対する帰国時オリエンテーションにおいて「拠点システムガイダンス 協力経験を後輩のために生かす」を実施し、より多くの情報の登録を促すと同時に、帰国後の現職派遣隊員間の情報交換や後続隊員への側面支援を行うために、既に準備段階に入っているメーリングリストへの参加を依頼した。